

## オンライン配信で気になった世代間分断

今ではすっかり定着したオンライン授業、旨く出来るか、効果が上がるか議論していた2年前を遠い昔のように感じます。コロナ禍、本学でも卒業式や入学式の入場者数を制限したこともあり式典の様子をオンラインで配信しました。実況中継したのは情報デザイン学科の学生たちです。事前にマイクやカメラを準備し式典で流す映像データを確認、本番も手際よくこなしてばっちり配信できました。考えてみれば彼らが物心ついた時にはスマホが身近にあり、今やユーチューバーやライバーが「職業」になる時代なのです。

戦火のウクライナからゼレンスキー大統領の説得力ある映像や避難民の自撮り映像が連日のようにニュースに登場しています。かつて通信衛星を使って小倉城の映像を大阪に送るプロジェクトに関わったことがあるのですが、中継車とともに多くのプロ技術者が来て準備に時間を要したことが嘘のようです。

話は変わりますが「戦時下プーチン大統領の支持率が83%に上昇」というニュースと同時にウクライナ侵攻について「明確に賛成する」と答えた人が55歳以上では64%だが24歳以下は29%と低かったことが報道されました。マスメディア全盛時代に育ち大人になってからパソコンやインターネットに触れた世代にとってSNSは新たなオプションの一つですが、スマホネイティブの若者にとってはSNSが当たり前で、マスコミは操作されているかもしれないとも感じている存在なのです。

今回、学生のオンライン配信を見てIT技術の進歩と若者のITリテラシーの高さを再認識しました。これまで大人の感覚でフェイクニュースや自分に心地よいニュースばかりを見るフィルターバブルに気をつけるよう学生に注意してきましたが、大人の自分たちこそ「マスコミを鵜呑みにして大丈夫？」と心配になりました。今や学生たちも大人、彼らとしっかり意見交換して世代間の分断を埋め、時代に対処しなければと感じました。

## 価値を測る「モノサシ」を増やす

これまでは目標に向かって準備すれば成功する確率が上がると言われていましたが、社会が複雑になり将来の予測が困難な時代を迎えて、目標さえ設定できずに事前の準備や予習をして成功することが難しくなっています。今回のロシアのウクライナ侵攻でも「武力で領土を拡大しない」というルールが全く無視され、異なる歴史観や価値観と言うモノサシで戦争が始まり、両者の話がかみ合わずお互いが怒っています。予想問題を解いて準備し試験で70点取ったら合格というような単純なモノサシが通用しない時代になっているのです。人は、相手の価値観が自分とは明らかに違う場合や理解不能でなおかつ自分が正しいと思っているとき、また「うまくいかないとき」「失敗したとき」に怒りを感じます。今の時代、怒りを感じたら「もしかしたらゲームやルールが違うのではないか」「間違っているのは自分の方ではないのか」と立ち止まって考えるチャンスです。社会が複雑化し多様性が進む現代は価値を測るモノサシが変化したり増えたりしているからです。自分は固定したモノサシで測っているのではないかという気づきがあれば相手との関係も良くなります。

また、どうしてうまくいかないのか考える過程で自分のモノサシを増やすことができ課題発見にもつながります。大学時代に「自分はこう考えてこう答えを出した」というプロセスを繰り返してうまくいかない経験を積み、新しいモノサシや課題を見つけることが大切です。課題はこれからの目標にもつながります。自分はここが弱点と従来のモノサシで見ても二の足を踏むのではなく、体験を通じて見つけた新たなモノサシで測り「自分にはこんな強みもあったんだ」と気づくことです。遊びと思われがちの「eスポーツ」を教育に取り入れたのもそのためです。幸い大学には試行錯誤や失敗が許される環境があります。大学を気づきがある「知的好奇心を揺さぶる場」にしたいと考えています。

注)多様なモノサシの存在に気づいた後は、細谷功著「地頭力を鍛える」(東洋経済新報社)をお薦めします。